

変更箇所	変更案	現行
<p>4. 新病院の機能 (本文_P6)</p>	<p>(1)、(2) (略) (3) 患者・家族及びスタッフ等すべての病院利用者に優しい病院 ①～③ (略) ④ 医療従事者が安全かつ効率的に働くことができるように動線分離・諸室の集約化を図るほか、休憩室・当直室、<u>飲食スペース</u>、学習スペースや院内保育所など職員にとって働きやすく魅力ある環境を整備します。 (4)～(6) (略)</p>	<p>(1)、(2) (略) (3) 患者・家族及びスタッフ等すべての病院利用者に優しい病院 ①～③ (略) ④ 医療従事者が安全かつ効率的に働くことができるように動線分離・諸室の集約化を図るほか、休憩室・当直室、<u>職員食堂</u>、学習スペースや院内保育所など、職員にとって働きやすく魅力ある環境を整備します。 (4)～(6) (略)</p>
<p>5. 整備概要 (本文_P8)</p>	<p>(1) (略) (2) 病床規模 今後の入院患者数推計や平均在院日数の短縮傾向を踏まえる一方、市街地西部の中核病院として安定的に急性期医療を提供するとともに、新興感染症への対応等を強化する必要があるため、現在と同じ358床を確保します。 また、より高度な水準の2次救急医療に対応するとともに、高度かつ専門的な医療及び急性期医療を必要とする患者を可能な限り受け入れられるよう、重症系病床を増床します。さらに、今後の新興感染症の感染拡大時には収容スペースとして転用する等、柔軟に対応できるような拡張スペースを確保します。 なお、医療の高度化や複雑化に対応し、より高度な水準の2次救急や新興感染症等へ対応する機能を確保するため、1床あたりの面積は、中央市民病院や西神戸医療センターと同程度の<u>約95㎡</u>を確保します。 (中略) (3) 診療科目 消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、<u>眼科^{※注}</u>、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、リハビリテーション科 ※注 <u>眼科は、診療を行わず、他の医療機関との連携により対応します。ただし、他の診療科の疾患で入院し、合併症として眼科疾患を発症している患者への対応については、今後調整を行います。</u> ※診療科目は、今後の国の政策や医療環境の変化を踏まえ、見直す可</p>	<p>(1) (略) (2) 病床規模 今後の入院患者数推計や平均在院日数の短縮傾向を踏まえる一方、市街地西部の中核病院として安定的に急性期医療を提供するとともに、新興感染症への対応等を強化する必要があるため、現在と同じ358床を確保します。 また、より高度な水準の2次救急医療に対応するとともに、高度かつ専門的な医療及び急性期医療を必要とする患者を可能な限り受け入れられるよう、重症系病床を増床します。さらに、今後の新興感染症の感染拡大時には収容スペースとして転用する等、柔軟に対応できるような拡張スペースを確保します。 なお、医療の高度化や複雑化に対応し、より高度な水準の2次救急や新興感染症等へ対応する機能を確保するため、1床あたりの面積は、中央市民病院や西神戸医療センターと同程度の<u>約100㎡</u>を確保します。 (中略) (3) 診療科目 消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、<u>眼科</u>、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、リハビリテーション科 (新設) ※診療科目は、今後の国の政策や医療環境の変化を踏まえ、見直す可</p>

	能性があります。 (略)	能性があります。 (略)
第2章 部門別基本計画 1. 外来部門 (本文_P9)	(1) (略) (2) 運営計画 ① 案内・受付・会計機能 ・コンビニや_____情報コーナー等の利便施設の充実を図ります。 ② ~ ⑤ (略)	(1) (略) (2) 運営計画 ① 案内・受付・会計機能 ・コンビニやカフェ、情報コーナー等の利便施設の充実を図ります。 ② ~ ⑤ (略)
第3章 医療機器・情報システム整備計画 2. 情報システム整備基本方針 (本文_P27)	(1) 電子カルテシステムを含む基幹システム及び主要な部門システムについては、 <u>移転前に保守期限の満了を迎えるため、現病院で更新の上、新病院に移設します。</u> (2) ~ (5) (略)	(1) 電子カルテシステムを含む基幹システム及び主要な部門システムについては、 <u>新病院開院前に詳細更新計画を検討し、新病院開院と同時に更新を図ります。</u> (2) ~ (5) (略)
第4章 施設整備計画 1. 建築計画概要 (本文_P28・29)	(1) (略) (2) 建物規模 病床数 358 床 病院延床面積 約 34,000 m ² 駐車台数 100 台程度 (患者・来院者・業務用) (3) (略) (4) 駐車場計画 ① 駐車場については計 100 台程度 (患者・来院者_____・業務用) を敷地内に確保します。 ② 病院内の交流機能 ・病院敷地南側に雨天時でも子どもが遊べる交流スペース_____を整備し、若松公園と連続性を持った空間として病院利用者だけではなく公園利用者にとっても憩いの場となるスペースを整備します。 ・(略)	(1) (略) (2) 建物規模 病床数 358 床 病院延床面積 約 39,000 m ² 駐車台数 200 台程度 (患者・来院者・職員・業務用) (3) (略) (4) 駐車場計画 ① 駐車場については計 200 台程度 (患者・来院者・職員・業務用) を敷地内に確保します。 ② 病院内の交流機能 ・病院敷地南側に雨天時でも子どもが遊べる交流スペースや <u>利便施設 (カフェ等)</u> を整備し、若松公園と連続性を持った空間として病院利用者だけではなく公園利用者にとっても憩いの場となるスペースを整備します。 ・(略)
第6章 新病院整備スケジュール (本文_P34)	スケジュールについては、 <u>基本設計完了後、実施設計・建設工事に着手し、令和 13 年度夏頃の開院を目標に本事業に取り組みます。</u> (略) ただし、今後設計を進める中で、計画内容など諸条件によりスケジュールが変更になる場合があります。 なお、新病院が開院するまでは現病院での運営を継続します。	スケジュールについては、 <u>基本計画策定後、設計・建設工事に着手し、令和 10 年度中の開院を目標に本事業に取り組みます。</u> ただし、今後設計を進める中で、計画内容など諸条件によりスケジュールが変更になる場合があります。 なお、新病院が開院するまでは現病院での運営を継続します。

想定スケジュール

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
基本設計	■							
設計施工者選定			■					
実施設計			■					
建設工事			■					
開院準備								■ 開院

想定スケジュール

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
基本計画	■						
設計者選定		■					
基本設計		■					
設計施工者選定			■				
実施設計			■				
建設工事			■				
開院準備							■ 開院

第7章 施設整備計画

1. 概算事業費
(本文_P35)

新病院整備に係る概算事業費について、近年の社会情勢による建築費用の高騰を見込み、以下のとおり算定しました。

なお、今後もそうした情勢の変化を注視しながら設計段階において更に精査するとともに、引き続き事業費の抑制に努めます。

項目	内容	概算事業費
設計・管理費等	基本設計、実施設計、設計監理 等	20 億円
建設工事費	本体工事、駐車場、外構 等	454 億円
医療機器等整備費	医療機器、情報システム、什器・備品等	50 億円
その他費用	利息、移転費 等	81 億円
合 計		605 億円

新病院整備に係る概算事業費について、近年の社会情勢による建築費用の高騰を見込み、以下のとおり算定しました。

なお、今後もそうした情勢の変化を注視しながら設計段階において更に精査するとともに、引き続き事業費の抑制に努めます。

項目	内容	概算事業費
設計・管理費等	基本設計、実施設計、設計監理 等	15 億円
建設工事費	本体工事、駐車場、外構 等	243 億円
医療機器等整備費	医療機器、情報システム、什器・備品等	50 億円
その他費用	利息、移転費 等	32 億円
合 計		340 億円

2. 収支計画
(本文_P35)

新病院における財政収支試算計画は以下のとおりです。
新病院整備による減価償却費負担の増に加え、開院初年度は移転に伴う診療抑制による収益の減少や移転準備にかかる費用の増等により赤字となるものの、コスト縮減効果を期待できる実施設計DB（デザインビルド）の採用等により経費削減に取り組むとともに、医療提供体制の充実を図ることで、効率的な新病院の整備・持続可能な病院運営に努め、開院7年目の単年度収支黒字を目指します。

単位（百万円）

	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度	令和19年度
病院事業収益	12,455	17,919	17,968	18,767	18,867	18,743	18,743
病院事業費	13,672	18,818	18,828	18,805	18,852	18,770	18,292
単年度経常損益	▲1,217	▲899	▲860	▲38	15	▲27	196

※令和13年度夏頃の開院を予定。

新病院における財政収支試算計画は以下のとおりです。
新病院整備による減価償却費負担の増に加え、開院初年度は移転に伴う診療抑制による収益の減少や移転準備にかかる費用の増等により赤字となるものの、コスト縮減効果を期待できる実施設計DB（デザインビルド）の採用等により経費削減に取り組むとともに、医療提供体制の充実を図ることで、効率的な新病院の整備・持続可能な病院運営に努め、開院2年目の単年度収支黒字を目指します。

単位（百万円）

	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度
病院事業収益	5,137	15,386	15,348	15,388	15,344	15,344
病院事業費	6,140	15,344	15,318	15,344	15,326	15,343
単年度経常損益	▲1,003	42	30	44	18	1

※令和10年度中の開院を予定。